

しまねの社会教育 だより

島根県立西部社会教育研修センター
vol. 17
島根県立東部社会教育研修センター



特集 研修の学びを活かす!!

2014.
7月号

photo 飯南町頓原公民館 子ども対象事業 とんぼら探検隊 「忍者ごっこ」

- contents
- 研修の意義 知識・技能+α
 - チラシのBrush up!!
 - わがまちの社会教育実践紹介〔美郷町・松江市〕
 - 社会教育施設紹介〔島根県立三瓶自然館サヒメル〕

『研修を受ける前と受けた後では、はっきりと違います。』

飯南町 頓原公民館主事 景山 良一 さん

景山さんは、『自分たちの暮らす“地域”の魅力を発見・発信したい』という思いをもって、平成25年春、飯南町の公民館主事になりました。公民館主事の職務をきちんと理解し、公民館主事としての力量に磨きをかけるため、1年目の昨年度は、時間が許す限りさまざまな研修に参加されました。

それぞれの研修で、たくさんの学びがあったそうです。その中から、特に印象に残っている2つの研修の話をお聴きしました。

雲南市・飯南町・奥出雲町3市町教育委員会主催 『親学ファシリテーター養成講座』

雲南市で受講したこの講座は、ずば抜けて印象的で、心に残るすごい講座でした。アイスブレイクやワークショップの効果を身体全体で実感させられました。

正直、はじめは何事かと思ったアイスブレイクですが、いざ中心の活動がはじまったときに、その意味や意義がわかりました。

公民館事業を組み立てるときにも、ワークショップの考え方や流れを活かしています。事業には“ねらい”があって、そのねらいに向かって“手段”を組み立てていきます。その“流れ”をつくる作業は、ワークショップの流れと同じだと考えています。

「ねらいを定め、プログラムを組み立て、事業展開し、ふり返る」—この手順が染みついたことに大きな収穫がありました。

それから、“ファシリテーター”としての役割を理解しスキルを習得することは、ワークショップの進行だけでなく、地域住民の想いや考えを引き出し、住民同士をつなぐことにも役立っています。



飯南町教育委員会主催 『チラシ作成研修』

普段から“アソビゴコロ”をもって仕事をしているつもりですが、この研修に参加して、チラシづくりが、もっと楽しくおもしろくなりました。

「誰に来てほしいのか」から、「フォントの選び方」「見せ方のポイント」「一番伝えたいことは何か」…などまで。

研修を受けた後すぐにつくったチラシを使って講座募集をしたところ、町内外からしばらく電話が鳴りやまず、申込をお断りするほどの効果がありました。

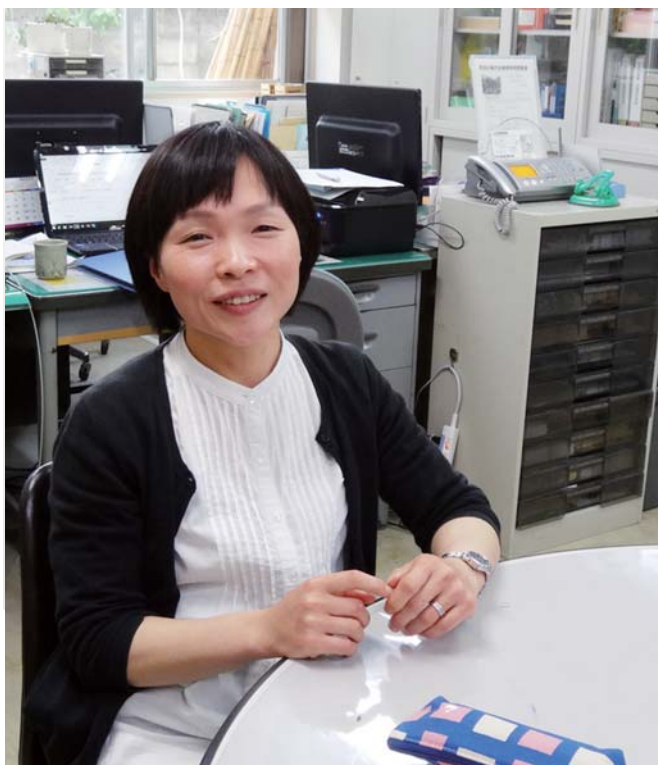
“まず、自分が楽しむ”ということを学びました。



研修は、必要な知識や技能を習得し、資質・能力に磨きをかけるうえで重要です。県内には、それぞれの地域や現場で、研修の学びを活かして地域力の醸成につながる実践に取り組んでいる方がたくさんおられます。研修の学びをどのように活かしておられるのか、2人のインタビューを紹介します。

『“研修の成果”は、時間をかけてじわじわと現れてくる場合があります。』

安来市 広瀬交流センター主事 喜多川 由紀 さん



「“研修の成果”は、研修を受けてすぐに発揮できる場合と、時間をかけてじわじわと現れてくる場合があります。」

そう語る喜多川さんは、平成25年度に社会教育研修センターが主催した「基礎研修」「専門研修」の全ての研修を受講されました。

喜多川さんには、研修に対する想いについてお聴きし、一緒に仕事をする事の多い安来市教育委員会派遣社会教育主事の福本さんにも、喜多川さんについてお話をお聴きしました。

『研修』に求めること

私にできることは、“ヒト”と“ヒト”をつないでいくことだと思います。地域には、いろいろな想いをもった方がたくさんいらっしゃるのので、その人たちの気持ちにふれて、つないでいくことを大切にしていきたいと考えています。

研修では、その方法を教えてもらったり、他の参加者と交流することで考えを整理したりで

きます。研修や交流センター事業で出会った方たちに、私自身の幅を少しずつ広げてもらっていると感じています。また、交流センターの仕事を通じてたくさんの方とかかわる中で、『ああ。これは、あのときの研修で話されたことだ。』と気づくことがあります。

最近では、参加する研修の内容や方法・進め方を交流センター事業で真似しようと思って参加するようにもなりました。

安来市教育委員会派遣社会教育主事 福本さんの話

喜多川さんの動きには、社会教育の理念や方法がベースにあると感じています。人を巻き込み、地域の方が主役になるような働きかけをされています。地域の方の活動が、地域の役に立っていることや広瀬の地域づくりにつながっていることを理解してもらうような声かけを常にしておられます。

このような考え方や動きを、一回一回の研修で身につけてくれたことが、一緒にいてよくわかります。

“研修”と“実践”が結びついてこそ、研修が活きます。

「研修や事業のあと、ご一緒した方々から、『あの時は、おもしろかったねえ。また、一緒にやろうや。』と声をかけられることが、明日へのエネルギーになる。」と喜多川さんは笑顔で話されていました。



研修の意義



公民館の館長や主事等の職員については、公民館が地域住民に最も身近な社会教育施設として適切な学習機会を提供するなど能動的、積極的な活動を行うため、一人一人が国際化、情報化、高齢化等に伴う社会的要請及び地域の課題等の調査分析能力や、地域住民のニーズを的確に把握する能力を持つことが期待され、種々の研修機会を利用して専門性のある職員としての資質の向上を図ることが望まれる。

新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について～知の循環型社会の構築を目指して～（答申） 平成20年 中央教育審議会

多様化・高度化する人々の学習ニーズ、社会の変化や新たな課題等に的確に対応していくために社会教育にかかわる方には、“専門性”“資質・能力の向上”が強く求められており、法令や答申などで、研修の必要性はくり返し示されています。

公民館職員や社会教育主事・コーディネーターに必要な資質・能力について、国立教育政策研究所社会教育実践研究センターの調査では、次のように示されています。

必要な資質・能力（市町村回答）

資質・能力	公民館職員		社会教育主事	
学習課題の把握と企画立案能力	1位	71.8%	1位	74.7%
調整者(コーディネーター)としての能力	2位	41.2%	2位	65.4%
幅広い視野と探究心	3位	30.2%	4位	36.5%
各分野の指導に必要な知識や技術	4位	24.7%	5位	28.0%
コミュニケーション能力	5位	22.1%	3位	36.7%

文部科学省 国立教育政策研究所 社会教育実践研究センター「公民館の職員の研修に関する実態調査報告書」(平成22年3月)、
「社会教育主事の専門性を高めるための研修プログラムの開発に関する調査研究報告書」(平成21年3月)を参考に作成

コーディネーターに必要な資質・能力

- 地域の社会教育等についての基礎知識の理解
- コーディネートに関する理解とスキル
- 地域情報の収集・組織化・提供についての理解とスキル
- コミュニケーションに関する理解とスキル
- ネットワーク形成についての理解と診断スキル
- 会計・設計・マネジメントについての理解とスキル

文部科学省 国立教育政策研究所 社会教育実践研究センター「社会教育を推進するコーディネーターの役割及び資質向上に関する調査研究報告書」(平成21年3月)を参考に作成

これらの資質・能力を高める場の1つが研修といえます。





当センター研修参加者からは「グループで他市町村の方のいろいろな意見を聴いて大変参考になった。」「他地域の方の取組や考えで事業改善ができた。」など、参加者同士の話し合いで価値観が広がったり、気づきが深まったりすることや、「研修に参加することで職務に対する意欲や意識が高まった。」という声もよく聞きます。

このように研修は、知識や技能の習得はもちろんですが、**参加者同士の交流**から大きな学びを得ることや**意欲・意識の向上**、**ネットワークづくり**の場としても重要な機会となっています。



東部・西部社会教育研修センター 主催研修のカたち

今年度から東部・西部社会教育研修センターの主催研修は、対象者別に提供するカたちにかえました。社会教育にかかわる方の専門性に焦点をあて、必要な知識や技能を学ぶ研修を提供しています。

昨年度まで

基礎研修

- 「しまねの社会教育」講座
- ワークショップ講座
- コミュニケーション講座
- プレゼンテーション講座

専門研修

- コーディネータカアップ講座
- ファシリテータカアップ講座
- 学習プログラム
企画・立案カアップ講座

今年度から

対象者別研修

- 市町村**社会教育担当者**研修
- 社会教育委員研修
- 公民館等職員研修
- コーディネーター研修
- 新プログラム対応
親学ファシリテーター養成講座

対象者別研修以外の研修については、市町村支援として対応します。

研修支援を希望される市町村の担当者の方は、東部・西部社会教育研修センターへご相談ください。

チラシの **Brush up !!**

地域力の醸成につながる魅力的な講座・イベント等を企画しても、その情報が対象である多くの住民に伝わり、参加してもらわなければ意味はありません。
そこで、広報の代表的なツールである『チラシ』づくりのポイントについて紹介します。



重要!

ターゲットを徹底的に絞る!!

年齢・性別はもちろん ライフスタイルまで
徹底的に 絞り込む!!



チラシ全体の構成・レイアウトに反映させる!!

重要!

心に響くタイトルをつける!!

企画者側 「ターゲット」を意識して
「ウリ」と「ゴール」が見えるように!!

受け手側 「楽しい」「役に立つ」「友だちもできそう」
だと思ってもらえるように!!

- point 1 タイトルは 上から 1/3で勝負!!
- point 2 タイトルは 太ゴシックがおすすめ
- point 3 効果的なイラスト・写真の活用を
- point 4 ターゲットに応じた 書体に
- point 5 書体は 3種類まで
- point 6 日時は 目立たせる
- point 7 空間も うまく 取り入れる
- point 8 1日得する気分になるよう
隅々まで 工夫を!!

社会教育の実践紹介

美郷町

「地域の匠」による学校支援で、子どもも大人も元気いっぱい
 邑智小学校、邑智中学校での「美郷ふるさと道場」の開設

「地域の匠」代表 栗原孝美

私たち「地域の匠」は、会員約40名の自主的組織です。この組織は教育委員会主管の生涯学習講座「長寿大学」の卒業生会が前身です。活動の中に邑智小中学校への学校支援「美郷ふるさと道場」があります。

■ 邑智小学校「古き遊びのふれあい道場」

5年生を対象に夏休みに開催しています。活動内容は 銭太鼓づくり、銭太鼓演技指導、ファイヤーストーム、食事会、スタンプ発表などです。夜には大勢の保護者もかけつけ、子どもたちの銭太鼓演技を応援していただきました。



■ 邑智中学校「匠の指導による伝承料理教室」

1年生を対象に開催しています。押し寿司、いりかね、秋野菜のてんぷらなどがメニューです。郷土料理を通してふるさとの良さやすばらしさを感じてほしいと思っています。

私たち大人のやりがいと子どもの育ちへの支援、さらには、ふるさとを思う気持ちの伝承をめざして、今後もがんばっていきたいと思います。



『学び』を活かして地域貢献されていますね。そんな“オトナ”の姿は、ふるさとの良さとともにしっかり子どもたちの“ココロ”にしみてゆくのではないのでしょうか。

(編集スタッフ)

松江市

「遊びは未来を開く鍵穴」

古志原子ども広場 スタッフ 北原則夫

「やったァ！私の勝ちィ」牛乳パックで作ったおもちゃと、自分たちで考えた遊びに歓声を上げる子どもたち。古志原子ども広場のある日のひとコマです。現代の子どもたちの周囲には、既製品で楽しいゲームやおもちゃが揃っています。裏を返せば、子どもたちはどこかの誰かが考えた遊びの世界にいることになります。

随分前の話になりますが、私はのっぽさんとゴン太くんで知られる、NHK教育テレビの「できるかな」に携わっていた時代がありました。牛乳パックや段ボールなどで作った遊びの世界、そこはいつも楽しさに溢れていました。遊びも道具も自分で作る楽しさを子どもたちや児童クラブのリーダーと共有したいと、今活動に取り組んでいます。

牛乳パックや空き缶、ヨーグルトのカップは捨てればただのゴミになります。しかし、少し手を入れるだけで、素敵なおもちゃに生まれ変わります。何より素晴らしいのは、そこから広がる工夫と遊びの世界の大きさです。創造から想像へ…その大きな世界に、未来を開く鍵穴が潜んでいると感ずるのです。



ご自身の『経験』を活かし、子ども教室や児童クラブのスタッフのみなさんへ工作を教える講師として“人づくり”に活躍中です。工作で遊びの世界を広げる子どもたちが増えそうですね。

(編集スタッフ)



みなさんの学習活動や事業の企画・立案に活かせる 自然体験・実感のプログラムがいっぱい



島根県立三瓶自然館 サヒメルは、三瓶山全体を生きた自然の博物館『三瓶フィールドミュージアム』として学校活動や公民館活動等で利用していただくため、館内の施設や野外フィールドを活用したプログラムを用意しています。また、専門スタッフを講師としてみなさまの地域に派遣しております。

三瓶の自然の中で

専門スタッフと三瓶の自然を体験・実感できます

季節の生きもの観察をはじめ、自然観察プログラムは、季節や参加者の年齢層、興味にあわせて行います。「自然観察」「プラネタリウム学習」「天体観察会」など、三瓶自然館内外を活用したプログラムで自然を体験・実感できます。



みなさんの地域で

専門スタッフとみなさんの地域で自然を体験できます

公民館やコミュニティセンター等の講座や観察会などに専門スタッフがうかがいます。

例えば

- ・昆虫専門スタッフと蛍の観察会
- ・天文専門スタッフと子ども星空観察会
- ・植物専門スタッフと秋の野草観察会 など

地質

三瓶山の
地層の観察

植物

三瓶の木と草花
季節の草花観察

昆虫

三瓶の昆虫
季節の昆虫観察

鳥類

バードウォッチング
季節の野鳥観察

ほ乳類

あにまるトラッキング
季節の生きもの観察

天文

プラネタリウム
星の学習
太陽・天体観察

豊富なプログラム!



お問い合わせ

島根県立 三瓶自然館サヒメル

〒694-0003 島根県大田市三瓶町多根1121-8
TEL:0854-86-0500 FAX:0854-86-0501
HP <http://nature-sanbe.jp/sahimel/>

編集スタッフから

今の子どもたちは自己肯定感が低いといわれています。どうしてなのか？わが子をはじめ身近な子どもたちから考えてみました。“体験不足・経験不足からくる自信のなさが、自己肯定感の希薄さにつながっているのではないか？”“もしかしら、私たち大人も同じなのかも知れない？”と思ってきました。興味をもって楽しみながら、人とのかわりの中で体験して、経験して得られる達成感・満足感から、自信や自己肯定感がわきあがるのだと思います。そう考えると、『未熟』であることに意味があるように思えてきます。まだまだ成長ののびしろがあるということ。子どもも大人も未熟な自分と向き合って学ぶことを楽しめたら…。そんなフィールドをつくるのも、社会教育なのかなと思えてきます。

東部社会教育研修センター

〒691-0074 出雲市小境町1991-2 サン・レイク2F
Tel.(0853)67-9060 Fax.(0853)69-1380

URL: http://www.pref.shimane.lg.jp/tobu_shakaikyoiku/
E-mail: tobu_shakaikyoiku@pref.shimane.lg.jp

西部社会教育研修センター

〒697-0016 浜田市野原町1826-1 いわみーる3F
Tel.(0855)24-9344 Fax.(0855)24-9345

URL: http://www.pref.shimane.lg.jp/seibu_shakaikyoiku/
E-mail: seibu_shakaikyoiku@pref.shimane.lg.jp

第18号は
10月末
発行予定